

2004年3月24日

各位

会社名 有限会社トランスメディア・コミュニケーションズ
代表者名 取締役社長 大塩 啓行
所在地 東京都品川区東五反田5丁目21番18号
第8スカイビル2F

NAB2004 出展のお知らせ

有限会社トランスメディア・コミュニケーションズ(本社:東京都港区、取締役社長:大塩啓行)は、来たる4月19日より米国ラスベガスで開催される国際放送機器展 NAB (National Associations of Broadcasters) に『Higher Quality, Higher Revenue (ハイヤー クオリティ ハイヤー レベニュー)』のテーマのもと、弊社独自の映像処理アルゴリズム『PiXWORK™ (ピックスワーク)』のご紹介と、PiXWORK™アルゴリズムを搭載した可逆圧縮ボードの展示を行います。映像処理アルゴリズム『PiXWORK™』は、可逆圧縮符号化方式をベースとして、スケーリング機能(アップ・ダウンコンバート)、解像度フリー、カラースペース変換、動きベクトル処理、メタデータ付加機能などを兼ね備えた映像処理アルゴリズムです。

今回は映像処理アルゴリズムのソフトウェアコーデックと、当該アルゴリズムを搭載した可逆圧縮ボードのデモ展示を行います。可逆圧縮ボードは、アイピーフレックス株式会社(本社:東京都品川区上大崎、代表取締役社長:萩島功一)が開発したDAP/DNA-2®ダイナミック・リコンフィギュラブル・プロセッサとDAP/DNA-FW II統合開発環境および評価ボードを利用して開発が進められています。これらを利用することにより、アルゴリズム開発からデジタル信号処理システムの実装まで、実効性能を把握しながらひとつのプラットフォーム上でシームレスに行うことができます。また、従来の設計手法に比べ、設計生産性を大幅に向上させ、開発期間を劇的に短縮することが可能です。ソフトウェア処理の柔軟性とハードウェア処理の高速性を同時に実現することにより、今後の製品・規格の多様化、プロダクトライフサイクルの短縮化に迅速に対応し、一段の技術優位性や市場競争力の向上を目指します。

【出展概要】

- ・日時 : 2004年4月19~22日
- ・会場 : 米ネバダ州ラスベガス ラスベガスコンベンションセンター(LVCC)
- ・ブース番号 : C3020
- ・デモ内容 : 完全可逆圧縮映像のソフトウェアデコード処理
HDカメラにて撮影された映像(1080-59.94i)を、PiXWORK™ファイルに変換し、ソフトウェア上で高速デコード処理を行います。変換された

映像は PiXWORK™の独自アルゴリズムで完全可逆圧縮されているため、ソース素材が持つオリジナルの品質を全く損なうことなく、約 50%のサイズまで圧縮されます。再生しながらリアルタイムでのズームイン・アウト（アップ/ダウンコンバート）、パン、フレームレートを自由に設定（1~60fps）することが可能です。

トランスメディア・コミュニケーションズについて

トランスメディア・コミュニケーションズは、急速に変化している映像メディア業界において、映像コンテンツの効率的な展開を実現するための映像技術を研究・開発するために設立されました。可逆圧縮符号化をベースとした独自の映像処理アルゴリズム『PiXWORK™（ピックスワーク）』を核として、ソフトウェアコーデック、カスタム・チップ、画像処理ボードの販売、画像・映像処理に関わるシステム開発を行っています。映像メディア業界のみならず、医用画像、セキュリティ、科学研究用画像処理などの分野においても、顧客ニーズを最大限に満たすための映像技術とソリューションを提供して参ります。製品・規格の多様化、プロダクトライフサイクルの短縮に伴う顧客ニーズの変化に迅速に対応すべく、ソフトウェアとハードウェアのそれぞれの利点を最大限に活かした製品企画・開発を進めています。有限会社トランスメディア・コミュニケーションズに関する詳細はこちらの URL をご覧下さい。（www.transmedia.jp）

PiXWORK™（ピックスワーク）について

PiXWORK™（ピックスワーク）は、可逆圧縮符号化方式をベースとして、スケーリング機能（アップ・ダウンコンバート）、解像度フリー、カラースペース変換、動きベクトル処理、メタデータ付加機能などを兼ね備えた映像処理アルゴリズムです。圧縮・保存されたデータは、数学的に立証可能な完全可逆圧縮符号化により、ソース素材が保有する情報を一切欠損することなく、元の情報量の約 40～50%で圧縮・保存がすることが可能です。今後一層入力映像の高解像度化の進展が予測される映像制作分野、ソース素材の原本性が必要とされる医療・産業・科学研究用画像処理など、高精細映像・画像処理が必要とされる各分野において最適化されたアルゴリズムです。

アイピーフレックスについて

設立 : 平成 12 年 3 月
代表者 : 萩島 功一（代表取締役社長）
所在地 : 東京都品川区上大崎 2-27-1 サンフェリスタ目黒 6 階
資本金 : 19 億 4,062 万円
社員数 : 56 名

アイピーフレックス株式会社は、2000年3月に設立されたファブレス半導体企業で、動的再構成(ダイナミック・リコンフィギュラブル)可能な高性能・多機能プロセッサとその開発環境を提供しています。アイピーフレックスが開発した「DAP/DNA ダイナミック・リコンフィギュラブル・プロセッサ」は、アプリケーションに最適な回路をオンデマンドで瞬時(1クロック)に構成できるプロセッサです。その性能は並列データ処理により従来のプロセッサに比べ、飛躍的に向上しました。また、Software to Silicon®コンセプトをベースにした統合開発環境フレームワークは、C言語のような高級言語でのアルゴリズム記述やMATLAB®/Simulink®のようなグラフィック・インタフェースでのシステムデザインを直接プロセッサ上に実現することを可能とし、ソフトウェアとハードウェア間の溝をなくします。DAP/DNAの使用により、アプリケーションの開発生産性を飛躍的に向上させ、開発コストを劇的に削減することが可能です。アイピーフレックス株式会社に関する詳細はこちらのURLをご覧ください。(www.ipflex.com)

DAP/DNA-2 ダイナミック・リコンフィギュラブル・プロセッサについて

DAP/DNA-2は、ダイナミック・リコンフィギュラブル(動的再構成)技術による柔軟性に加え、高速処理を実現した、世界初の汎用/標準プロセッサです。

特長：

- ・ 専用 LSI 並みの高性能処理
- ・ 従来の開発コストおよび開発期間を劇的に低減
- ・ チップの処理内容を瞬時(1クロック)に切替えることで、従来複数のチップが必要であったアプリケーションを1つのチップで行うことが可能

DAP/DNA-FW II 統合開発環境について

DAP/DNA-FW IIは、DAP/DNA-2上のアプリケーション開発において、アルゴリズムデザインから実デバイス上での検証までの全開発プロセスをカバーする高機能なツールセットです。

特長：

- ・ GUI形式の開発環境により、従来のゲートやRTLレベルでの設計に比べ格段に高い抽象度を実現し、設計生産性が向上。これに伴い、大幅な開発費削減が可能
- ・ 豊富なライブラリにより、設計生産性がより一層向上
- ・ DAP/DNA-FW II上でのアルゴリズム開発に加え、MATLAB/Simulink(The MathWorks社提供)上でアルゴリズム設計、検証を行なうことが可能

PiXWORK™ は有限会社トランスメディア・コミュニケーションズの商標です。

IPFlex®, アイピーフレックス®, DAP/DNA®, Software to Silicon® はアイピーフレックス株式会社の登録商標です。

●本件に関するお問い合わせ

有限会社トランスメディア・コミュニケーションズ

Tel. 03-5795-1817 Fax. 03-5793-3160

E-mail. info@transmedia.jp

アイピーフレックス株式会社

《お客様、および報道関係お問合せ先》

マーケティング部

Tel. 03-5436-3861 Fax. 03-5436-3862

E-mail. info@ipflex.com